

# 最優秀レジリエンス賞 製品関連2者が受賞

## 強靱化大賞

レジリエンスジャパン推進協議会(会長 江頭敏明氏・三井住友海上火災保険常任顧問)は15日、

ジャパン・レジリエンス・アワード(強靱化大賞)2019を発表、グランプリには「安全安心で、人と地域と世代をつなぐ 今治市グリーンセンター」(今治市、タクマなど)が選ばれた。

コンクリート製品関連では最優秀レジリエンス賞に「植物の成長メカニズムを利用した環境型道路インフラデザイン」(全国防草ブロック工業会・防草研究会)と「崩壊土砂、落石等の停止・捕捉を目



表彰を受ける矢野会長(防草ブロック工業会)



表彰を受ける高根副会長(ベルテクスコーポレーション)

的としたループフェンスの開発」(ゼニス羽田)が選ばれた。

ジャパン・レジリエンス・アワードは次世代に向けたレジリエンス社会構築へ向けて、強靱な国づくり、地域づくり、人づくり、産業界づくりに資する活動、技術開発、製品開発等に取り組んでいる先進的な企業・団体を評価、表彰する制度で、「企業・産業」「地方自治体」「教育機関」「NPO・市民活動」の4部門から金賞、最優秀賞、優秀賞、優良賞の他、グランプリ、特別賞等を選定し、表彰している。最優秀レジリエンス賞を受賞

した「植物の成長メカニズムを利用した環境型道路インフラデザイン」(全国防草ブロック工業会・防草研究会)は、道路インフラ整備事業に利用されるコンクリート製品やグレーチングに防草機能を装備した次世代の道路用製品。植物の成長メカニズム(屈性)を利用した独自の目地形状により、雑草の成長方向が逆向きとなるため

繁茂する事なく自ら成長を止め枯死する。従来の防草対策工事や製品、技術などを使用する事なく道路用製品による目地防草が可能。防草ブロック技術として、全国防草ブロック工業会(会長 矢野明正氏)が全国で普及活動を進めている。防草ブロック技術の受賞は、環境賞・優良賞(2013年)、国土技術開発賞・入賞(2014年)、愛知環境賞・銅賞(2016年)、発明大賞・本賞(同)、エ

コプロダクツ大賞・奨励賞(同)、グッドデザイン賞BEST100(2017年)、インフラメンテナンズ大賞・優秀賞(2018年)に続き8回目。

また、「崩壊土砂、落石等の停止・捕捉を目的としたループフェンスの開発」(ゼニス羽田)は、高耐力・高靱性のコンクリート充填鋼管柱を使用した高エネルギー吸収落石防護柵。隣接する支柱間でワイヤロープをループ状に巻きつけ、一定の余長を確保した緩衝

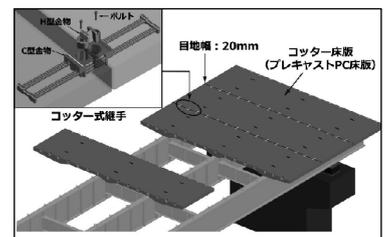
装置で把持したシンプルな構造により、地震動や大雨等で発生した落石災害から道路や家屋などを防護し、地盤が緩み土砂崩壊の危険のある場所でも道路や家屋などを土砂災害から防護する。

## コッター床版 工法事業化へ

熊谷組など4社

熊谷組(本社、東京都新宿区、社長 櫻野泰則氏)、ガイアート(本社、東京都新宿区、社長 山本健司氏)、オリエンタル白石(本社、東京都江東区、社長 大野達也、本社)、ジオスター(東京都文京区、社長 山崎真吾氏)の4社は、共同で開発した「コッター式継手を用いた道路橋プレキャストPC床版「コッター床版工法」の事業化に向けた共同事業契約を締結した。

コッター床版工法はプレキャスト・プレストレストコンクリート(PCPC)床版を、コッター式継ぎ手で接合する工法。供用中の道路橋梁床版の取り替え工事に用いる技術で、くさび状の金物やボルトで接合する「コッター式継ぎ手」を使い、橋梁床版を効率的に据え付けていくことができる。従来工法はプレキャスト床版の接合部に幅30〜40cmの間詰めコンクリート部が必要だったが、同工法では接合部の目地幅を2cmに抑え



ており、床版面積の99%をプレキャスト化できる。現場での鉄筋・型枠作業が不要に

なり、床版設置から接合までの作業日数が従来工法比で半減。作業に携わる人員も60%程度減らせる。簡単なボルトの締め付けで接合できるため、熟練工に頼らず作業できる。部分的な床版取り換えも容易。

輸荷重走行疲労試験など実用化に必要な試験は完了しており、今後はコッター式継ぎ手の設計・製造・販売を行う事業体制を検討。同社では高速道路のリニューアルプロジェクトをターゲットに、5年後に年間1万5000㎡の施工を目指すとしている。

## 辻勝専務取締役 社長昇格へ

日工

日工は2月28日、辻勝専務が4月1日付で社長に昇格する人事を決めた。西川貴久社長は代表取締役会長に就く。辻氏は兵庫県出身。1985年埼玉大学院修了。87年日工入社、2015年専務。58歳。